

令和6年度第1回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 令和6年7月17日(水) 10:00~11:40

【場 所】 小倉北区役所庁舎 上下水道局 大会議室

【構 成 員】 馬道構成員、小畑構成員、後藤構成員、佐藤構成員、
林田構成員、福地構成員、茂原構成員、吉本構成員〔50音順〕

【出席職員】 上下水道局長、総務経営部長、広域・海外事業部長、水道部長、
浄水担当部長、下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、
経営企画課長、営業課長、広域事業課長、海外事業担当係長、計画課長、
配水管理課長、浄水課長、水質試験所長、下水道計画課長、下水道整備課長、
下水道保全課長、施設課長、水質管理課長、経営企画課(事務局)

《議題及び報告》

◇議題

- ◆「北九州市上下水道事業中期経営計画2025の進捗管理（令和6年度予算）」について事務局から説明
- ◆「北九州市上下水道事業中期経営計画2025の進捗管理（令和6年度予算）」に関する質疑応答・意見

（構成員）

進捗事業一覧の中で、c評価の2事業（資料13、22ページ）について、その理由を伺いたい。

（事務局）

八重洲分岐から城野分岐送水管2条化については、皿山配水池への送水管の2条化を目的として、前中期経営計画から事業に着手している。一部区間は都市計画道路と重複していることから、同時施工によるコスト削減を目的として、道路工事にあわせて管を布設することとしている。その結果、本事業の進捗は当初計画の5割程度となっている。

（事務局）

上下水道技術の国際協力の中の研修員受入れについては、K I T A等からの研修生の依頼自体が減っているため、目標に到達しない状況が続いている。単年度で見れば、回復傾向にはあるが、コロナ渦での人数落ち込みの影響が大きく、通算での評価はcとしている。

(構成員)

資料28ページの料金収入、有収水量、収益的収支の推移をみると、計画を大きく下回っていることが分かるが、令和7年度以降の計画はいつ頃立案する予定か、また、今後収支がマイナスからプラスになる見込みはあるのか伺う。

(事務局)

人口減少等に伴い、料金収入が減少している状況にあり、大きく改善することは難しいと考えている。現計画は令和7年度までであるが、令和8年度から令和12年度までの次期中期経営計画を策定する中で、収支改善のために財源、事業費をどうするか検討し、収支が改善する方向で計画を策定して参りたい。

(構成員)

用水供給事業の収支について、他地域に水を供給する事業が始まっているが、収支が非常に厳しくなっているという印象を受ける。他地域に供給するにも関わらず、設備投資のリスクを北九州市が負っている。通常資本利益は、投下資本に対して大体8%が目標であるため、もう少し高い料金をもらわないと割に合わない。供給先の住民も将来的には減少し、供給量、料金収入が先細ることも見込み、早めに償却分をカバーすることを検討してもらいたい。

また、各事業全般的に計画に比べて随分収支が悪化している。要因としては、物価高騰や輸入価格の高騰といったことだろうが、人口減少で料金収入が減る中、コストは増加傾向にあるため、収支の悪化が高い確率で予想される。資料25ページに料金体系のあり方の検討という目標があるが、こちらを進めて早めに料金改定を行うべき。料金は上げざるを得ない。あとは市民がどの程度の値上げ幅であれば受け入れられるか。多少きつくても受け入れてもらわないと水道事業が成り立たず、水の供給が出来なくなれば大変なこととなる。令和7年度に料金体系のあり方の検討が終わったら、令和8年度に実施というくらいのスピード感を持つべき。

(構成員)

同じような内容になるが、前回の議事録を確認すると、令和8年度以降は水道で資金不足が生じて、下水道で収益的収支がマイナスになるという答弁が事務局からあり、構成員の方が、水道料金と下水道料金の適正化についても検討課題として取り組むことを要望した。

今回料金についての資料はないが、特に水道事業の料金体系、料金水準については、早急に検討するべきだと思われる。また、下水道事業についても楽観視出来る状況ではない。併せて下水道事業の見直しもするべき。

(事務局)

料金収入が減少する中で、物価が高騰し、収支が悪化しているというご意見をいただいた。特に水道事業では、人口減少や節水機器の普及で収入が減少している。それに加えて、昨今の電気代や労務費の高騰で厳しい経営状況にある。資料にお示ししたように、厳しい状況にあるということは構成員の方々もご存知だと思う。令和5年度、令和6年度予算では、計画に比べて資金剰余が減少しており、決算ではある程度の回復が見込まれるが、昨今の料金収入の減少が続いている状況では大きく改善することは難しいと思われる。このことは本市だけでなく、全国的に人口減少が続いている状況であり、他都市においても、経営環境が悪化し、料金改定を検討している

と伺っている。

今後の方針として、令和7年度までの現中期経営計画では、現行の料金を据え置くと規定している一方で、次期中期経営計画では資金不足が見込まれるため、令和7年度までに適正な料金体系のあり方について検討する。次期中期経営計画を策定する中では、財源について検討していく必要があると考えている。現時点では、審議会の設置等含め、具体的なスケジュールをお示し出来る状況にはないが、令和5年度の決算状況を精査し、他都市の動向も注視しながら検討する。

下水道事業についても、同じように次期中期経営計画の中で、適切な収支体系を維持できるような形で検討する。

もう1点、広域化について、用水供給事業から水道事業に対して水道施設の使用料を支出するため、水道事業の経営にも資するものとする。

ただし、使用料収入は1億1千万円程度であり、水道事業の収支が大きく改善するものではないが、少しでも水道事業の経営に役立てばと考えている。

(構成員)

資料8ページ4-1-1、多様な広域連携の推進に関して、行橋市、苅田町への水道用水供給事業の拡大は、油木ダムに起因する濁水の解消は水道格差の是正につながるため、大変期待している。

貴局のHPを拝見すると、中間市、鞍手町への供給について関係者と協議していると掲載されていたが、今後の見通しについて伺いたい。

(事務局)

中間市、鞍手町については、両市町と本市の相互にメリットがある広域連携という形で前向きに検討しているところである。

(構成員)

一般市民としては、水道料金が上がることはやむを得ないと思うが、急激に上がることは厳しいため、段階を踏んで欲しい。また、北九州市の水道料金が他都市と比べて安いということも、我々構成員は理解しているが、一般市民はほとんど理解してないと思われる。そういった点も考慮しながら、一般市民にも理解してもらえるように料金値上げを進めて欲しい。

(事務局)

こういった形での料金のあり方が望ましいか検討したい。また、段階を踏んでという意見については、参考として承りたい。

また、本市の水道料金は福岡県内では一番安いという点も、一般にあまり知られてない。そういった点をよりアピールすることで、本市の事業について理解して頂けるよう努めたい。

(構成員)

先日、北九州市の水源に関して質問した際、水源のほとんどが市外であることや、濁水のないまちをつくりあげるために先人たちが努力してきたことを知り感動した。地域でそういった話を出来ればと思い、広報室の出前講演を探したが、そのような内容は無かった。北九州市や上下水道事業に対する信頼も深まると思うので、ぜひこういった点もPRしてはどうか。

(事務局)

確かに出前講演にその項目は挙がっていない。今までは、水の安全性や海外の取組等、最新の取組について発信してきた。ご指摘のとおり、先人の取組というものは、我々の財産であるため、しっかり局内で検討したい。

(構成員)

料金に関して、水道というのは必需品であるため、値段を上げて逃げられない財だと考えられる。なので、料金を上げれば収入は増えるはずであるが、本当にそれで良いのかという問題はある。政治的な問題、時期的な問題もある。上手くはまるような時期があれば、その時を見逃さないようにするべき。また、事前にシミュレーションもした方が良いかと思う。他の自治体の値上げ時の収入を参考にすれば、弾力性を計算することが出来、何か見えてくるものがあるはず。

(構成員)

今の話の付け加えになるが、今年の6月に配布された1年に1度発行する広報紙の中で経営状況に関する部分もあったが、有収水量が減っている、料金収入も減っている、とそこで説明が止まっていた。市民としては、それだけでは不安を感じるので、積極的に経営状況と今後の対応についての情報発信をしていただきたい。

(事務局)

寒波や渇水時の対応等に関しては、積極的にPRを行ってきたが、経営状況が厳しいという点についてのPRは少し弱かった。今回、水道利用者の方々に向けて、現在厳しい状況に置かれているということをお知らせした。このような状況に対して理解を頂きつつ、先ほどお話があったように、これまで築いてきた事業の重要性、必要性をアピールしていきたい。

(構成員)

先ほど、市民にとっての安心というキーワードがあった。上下水道局職員の方は、安全、安心、強靱ということで仕事をされているかと思うが、安全だから市民が安心する訳ではないという点を踏まえる必要がある。料金見直しについては、しっかりと検討をお願いしたい。新聞テレビ等では、水道料金の安いランキング等が示されることがあるが、実際にはコスト構造であったり、取り組むべき事業課題が自治体毎に異なる。確かにランキングは気になるかもしれないが、上下水道局職員の方としては、コスト、あるいは、安全・持続・強靱につながることを中心に説明すれば良い。これらは意見、要望として伝えておく。

続けて質問になるが、資料7ページの3-1-5資源の有効利用に関して、こちらは新規として書かれているが、資料21ページの3-1-5を見ると、そもそも計画に織り込み済みであったようにも思われる。どのような位置づけかを伺いたい。

(事務局)

資料7ページの資源の有効利用を新規としているが、内容的には一つが下水道汚泥の肥料化、もう一つが下水の処理水の活用である。肥料は元々海外に依存していたが、昨今の円安、中国の輸出規制、ロシアの紛争等で急に価格が上がり始め、リンに関していえば、4倍近く価格が上がった時期もある。そのような背景の中で、政府としても国内の資源を肥料化しようと動いたもの

である。現中期経営計画を策定する際はこのような背景が無かったため、今回新規として盛り込んでいる。併せて、処理水についても有効活用出来ないか検討を進めるため、新規項目として挙げている。

(構成員)

下水道汚泥の肥料化のように、現在進行中の中期経営計画の中に組み込めるようなものを取り上げるとともに、場合によっては、次期中期経営計画のテーマとして、今のうちから枠組みの中に組み込んでおいて欲しいということを要望する。

最近では重要な取組課題であるウォーターPPPとして、特に下水道分野がPPP推進として予定されているようだが、今進んでいる経営計画、並びに今後の展開の中での見通しについて伺う。

(事務局)

下水道分野では、ウォーターPPPの実施が、今後改築を行う際の補助要件となっている。国の交付金については、本市が改築事業等を進めるにあたり必要な財源であるため、今後ウォーターPPPをどのように進めるかということを検討している。内容については充足してない部分もあるため差し控えたいが、検討していく必要があるとの認識である。

(構成員)

ウォーターPPPというのは、現在の中期経営計画が出来た後に、国の施策として出てきたものであるが、必要に応じて、今後予算化等に取組んで欲しい。

◇報告

- ◆「令和6年能登半島地震被災地支援活動報告」・「水道用水供給事業の拡大及び増量」・「ベトナム国ハイフォン水道公社とアンズオン浄水場U-B-C-Fに係る新たな覚書を締結」・「下水道資源の肥料利用に向けた取り組み」・「雨水タンクの助成制度」・「昭和町雨水貯留管整備事業」について事務局から説明

- ◆「令和6年能登半島地震被災地支援活動報告」・「水道用水供給事業の拡大及び増量」・「ベトナム国ハイフォン水道公社とアンズオン浄水場U-B-C-Fに係る新たな覚書を締結」・「下水道資源の肥料利用に向けた取り組み」・「雨水タンクの助成制度」・「昭和町雨水貯留管整備事業」に関する質疑応答・意見

(構成員)

資料3について、古賀市及び宗像地区事務組合が抱える老朽化や水源水質の課題解決とあるが、これと同じようことが北九州市でも起こりうるのか。

(事務局)

老朽化した浄水場については、アセットマネジメントの考え方を取り入れて、長寿命化を進めているところである。水源水質の悪化については、水源河川、特に遠賀川等では、周辺自治体の下水処理水も入ってくるため、常々水質の状況を監視している。また、臭気物質、特にカビ臭といったところで、苦情が入った際は、短期的に活性炭を入れるといった処理を行い、市民の方々

に美味しい水を供給出来るよう努めている。

(構成員)

昭和町雨水貯留管整備事業について、近くに、雨天時によく水が貯まるアンダーパスがあったかと思うが、先日の豪雨時のアンダーパスの状況について伺う。

(事務局)

今回雨水貯留管整備を行った場所は、お尋ねの場所とは異なる。アンダーパスについては、道路管理者がポンプを設置し、水が貯まった際には、強制的に水を排出する施設をしっかりと整備している。

(事務局)

今回の豪雨では、戸畑区一枝、八幡西区陣山、市内2ヶ所のアンダーパスで冠水が発生した。さきほど説明があったように、道路管理者がポンプ設備を整備しており、近くの雨水管等に排水する仕組みになっているが、今回の豪雨では雨量が短時間に急増したため、ポンプの能力が足りなかったと思われる。このような場合、道路部門と下水道部門が連携して対応することもあるが、今後も出来る限り浸水を起こさないよう努めて参りたい。

(構成員)

資料2の被災地支援に関しては、災害という悲劇ではあるものの、人の役に立てたという意味では貴重な経験になったのではないかと。

資料3で「固定費負担の軽減」と書かれているが、今後料金を見直すに際し、現在の固定費負担のあり方は議論しなくてはならないテーマだと思う。そういった意味で、重要な言葉だと感じた。

(事務局)

お忙しい中、当検討会に参加いただきお礼申し上げます。

今回は令和6年度予算について説明を行い、意見をお伺いした。

主に経営状況の悪化や、料金のあり方について様々なご意見をいただいた。用水供給事業については、今後も安定的に水が供給し続けられるのかという観点で不足していたことに気づかされた。雨水貯留管のPR等、広報活動については、大変厳しいお言葉をいただいたが、今後は力を入れていきたい。

令和6年度予算の財政状況については、いずれの事業においても、中期経営計画に掲げる計画値に対して、企業債残高は上回り、累積資金剰余金は下回るなど、非常に厳しい経営環境である。そのため、各施策を推進していくためには、本日いただいたご意見を踏まえつつ、より一層経営の健全化に努めていく必要があると感じている。